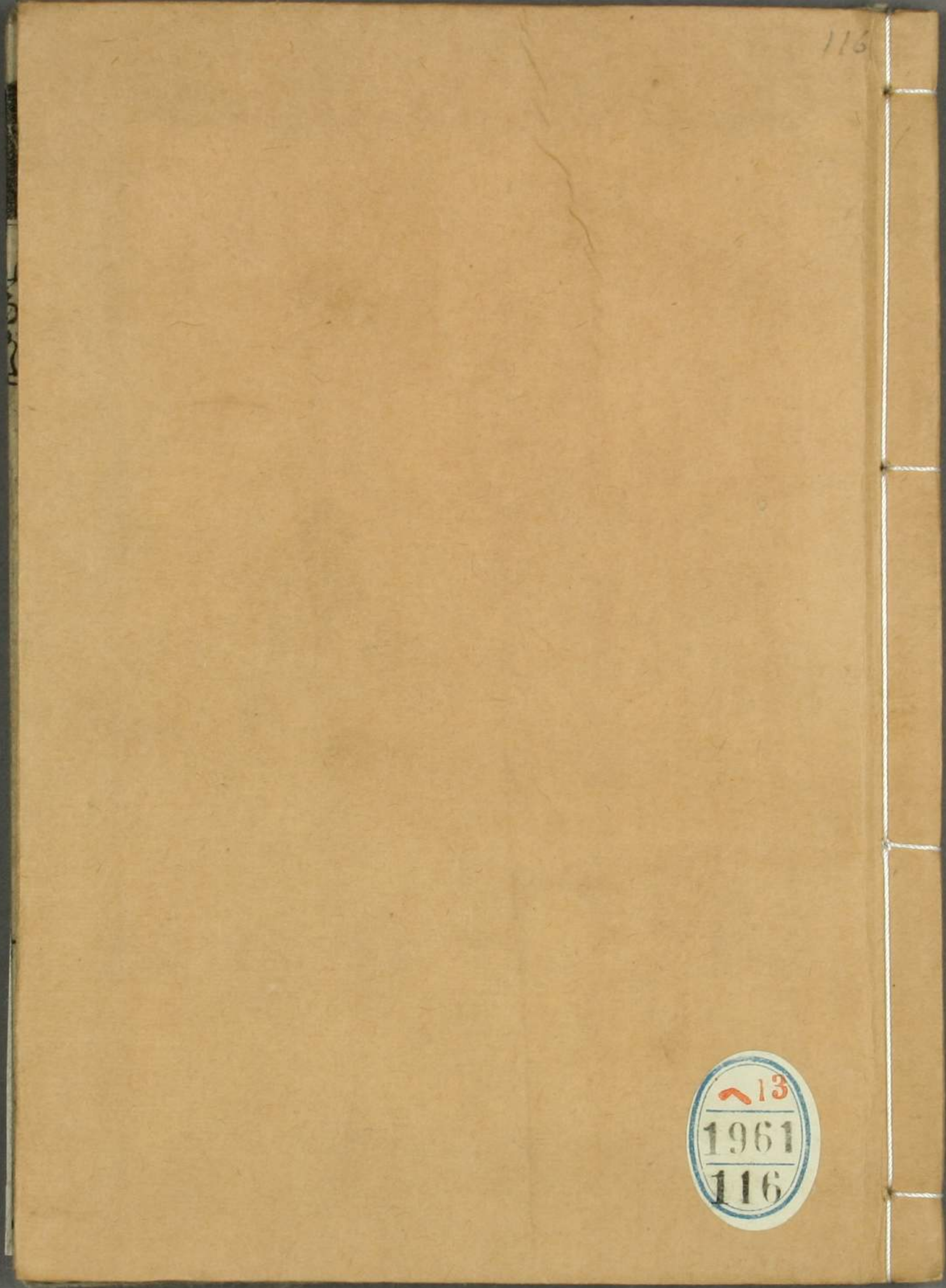


# KODAK Gray Scale



13  
1961  
116

116



六十五



116 三册合  
 遠  
 1961  
 108  
 107

1961  
116

赤雲 乃牌口主書と心出被為仕

一山子極方蓋出極極能は是山丸心悦真極皆好は此の松見世

山長有と心日防好昌仕実が愛と極難は仕合も及若為

涉社去秋中、作者画師法藏人子透、阿波江と若考諸事

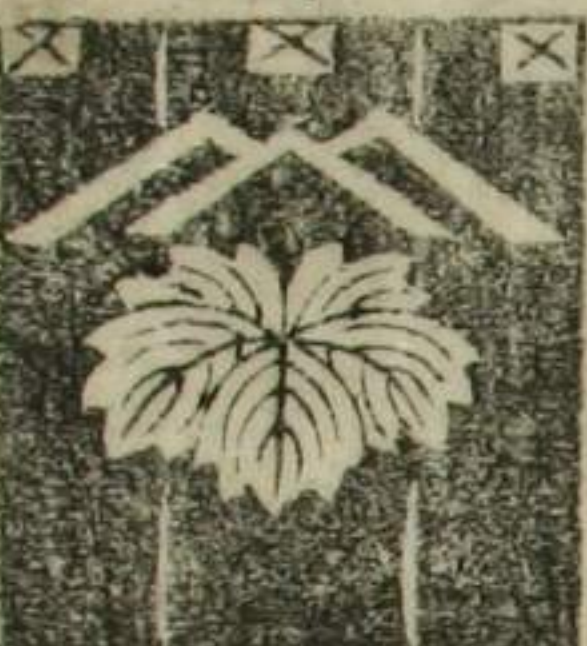
細味仕絵双紙は山不持仕尚未元日より無類大書賣信

同出書方より方極と小書見世中とよりくして萬屋板と心

為る取あ少正用と及月平と極等は此牌中書賣信と極

皇山風被平成出極と書光智と行倫と書希と心

市目 116



山と一書との  
あれは  
山ありあひ物  
ねろし仕

江戸とる油町

萬屋重三郎

あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...



あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...

あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...



あまのこころ...

あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...  
あまのこころ...

のんせいのこ  
 うけいり  
 けいさこの  
 つじつ  
 あらう  
 女小唄  
 ていん  
 まり

月もあつた  
 くらげ



ひろこの  
 はんの  
 せい  
 女小唄  
 して  
 けい  
 けい

七  
 借  
 改  
 ひろこの抱のぢり



月もあつた  
 くらげ



目伏て  
 まゝの  
 こゝろ  
 のどろ  
 せう  
 せんよ



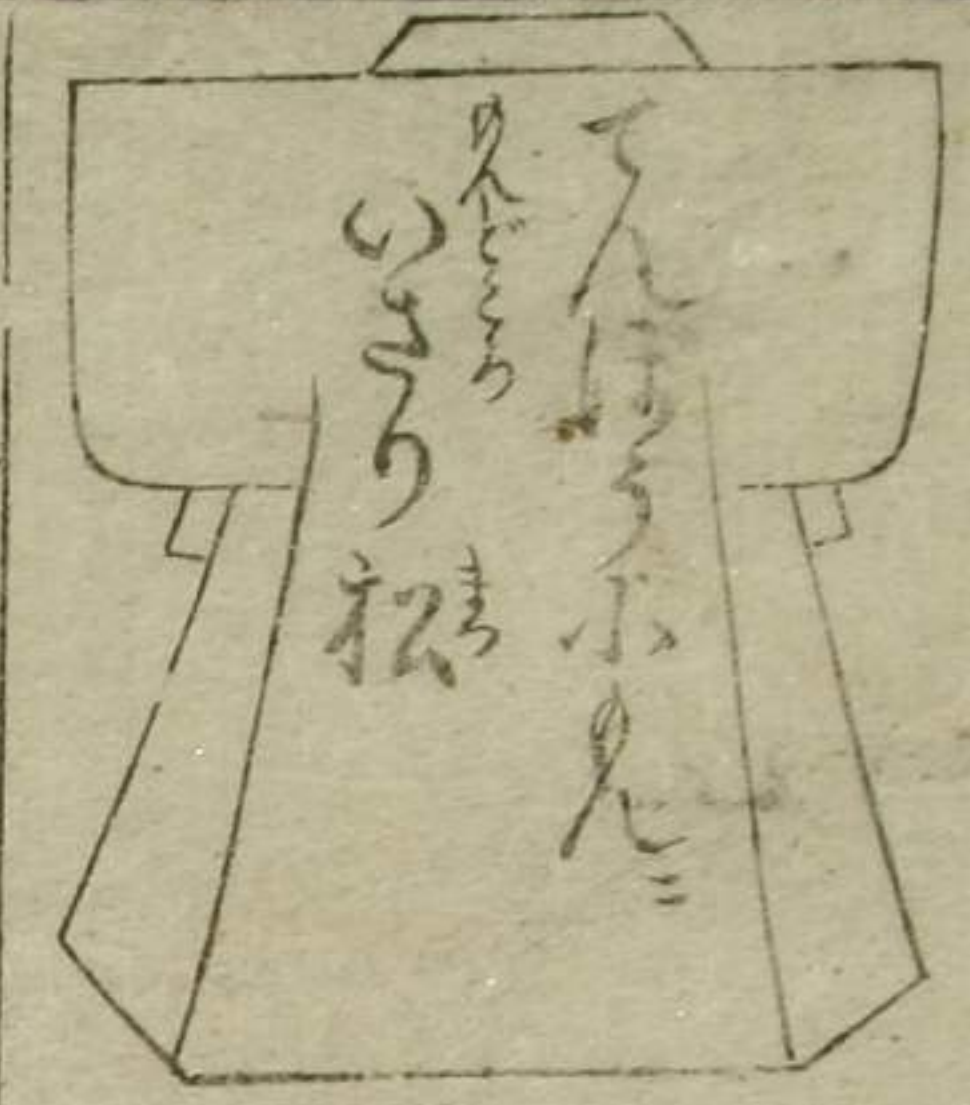
こゝろのちぢりんぱ  
 大いんとあつと  
 いろせせとドの  
 中のせうれまん  
 むらせとせふらと  
 ねごのあしらと  
 いとせのらと  
 きんしのあしと  
 でせとせうと  
 あせのあしと  
 めとせとせ  
 十でせうのうと  
 こりんとあしと  
 せとせとせ  
 あしとせとせ  
 これとせとせ



大紋  
 二くし  
 さことたかのらじ



こゝろのちぢりんぱ  
 大いんとあつと  
 いろせせとドの  
 中のせうれまん  
 むらせとせふらと  
 ねごのあしらと  
 いとせのらと  
 きんしのあしと  
 でせとせうと  
 あせのあしと  
 めとせとせ  
 十でせうのうと  
 こりんとあしと  
 せとせとせ  
 あしとせとせ  
 これとせとせ



てんはらうおん  
いさり松  
のうら  
のうら  
のうら  
のうら  
のうら

左のりの内らら  
右のりの外らら

ひめんあらのうちと  
くららやア  
コせうぞ

ひめんあらのうちと  
くららやア  
コせうぞ





夏草花

よあたし  
世彦口紺屋雜形

中

こびん女ののらり  
 たるはたせいでらら  
 めとせあふくすは  
 らるるふんふんは  
 きこるんかおひ  
 めとせあふくすは  
 らるるふんふんは  
 きこるんかおひ  
 めとせあふくすは  
 らるるふんふんは  
 きこるんかおひ



トツキ  
 トシク



こびん女が  
 せうぶんのこびん  
 ちやうげく

ぬげのせうぶんのこびん  
 ちやうげく  
 こびん女の仕立









三度目のかまきり  
 大さかぢりめん

ぢいさんともて  
 さかしのさかしの  
 かまきりおのり  
 マチアサの  
 くらもまがら  
 くららちちら  
 のりむらり  
 かんたらまら  
 小きれてあまふ  
 ぞろぞろらん  
 大のうらめん  
 めてらんハ  
 まじりの  
 ついで



まじりの  
 くらまの  
 うさぎと  
 きんぱ  
 が

ちくせう  
 あまあま  
 こと  
 小えん  
 のけちやア  
 けさねん  
 ぞよ



あま

七生  
 までの 謝あま  
 うちハ 大のち

七せう までのうんどう  
 あまのいしこころせ  
 とうちのあつこころ  
 のちとんおあそれハ  
 らんやうう あれはこ  
 らをりあひあやまら  
 せありあまのこころ  
 おすれはうらてあ  
 てあまがす



うねそのあまのち  
 ちてまのちのちあま  
 うしやう

ハイク  
 中を  
 ありて  
 ざります

まのち  
 まのち  
 不どのま  
 ざらぬ  
 らるる  
 ざらぬ

馬琴作

世  
諺  
口  
紺  
屋  
離  
形

下



茶の  
 葉の  
 葉茶  
 茶葉茶  
 茶葉茶

茶の葉の葉茶  
 茶葉茶  
 茶葉茶  
 茶葉茶

茶の葉の葉茶



茶の葉の葉茶  
 茶葉茶  
 茶葉茶  
 茶葉茶



浄  
 理  
 人  
 五  
 二  
 切

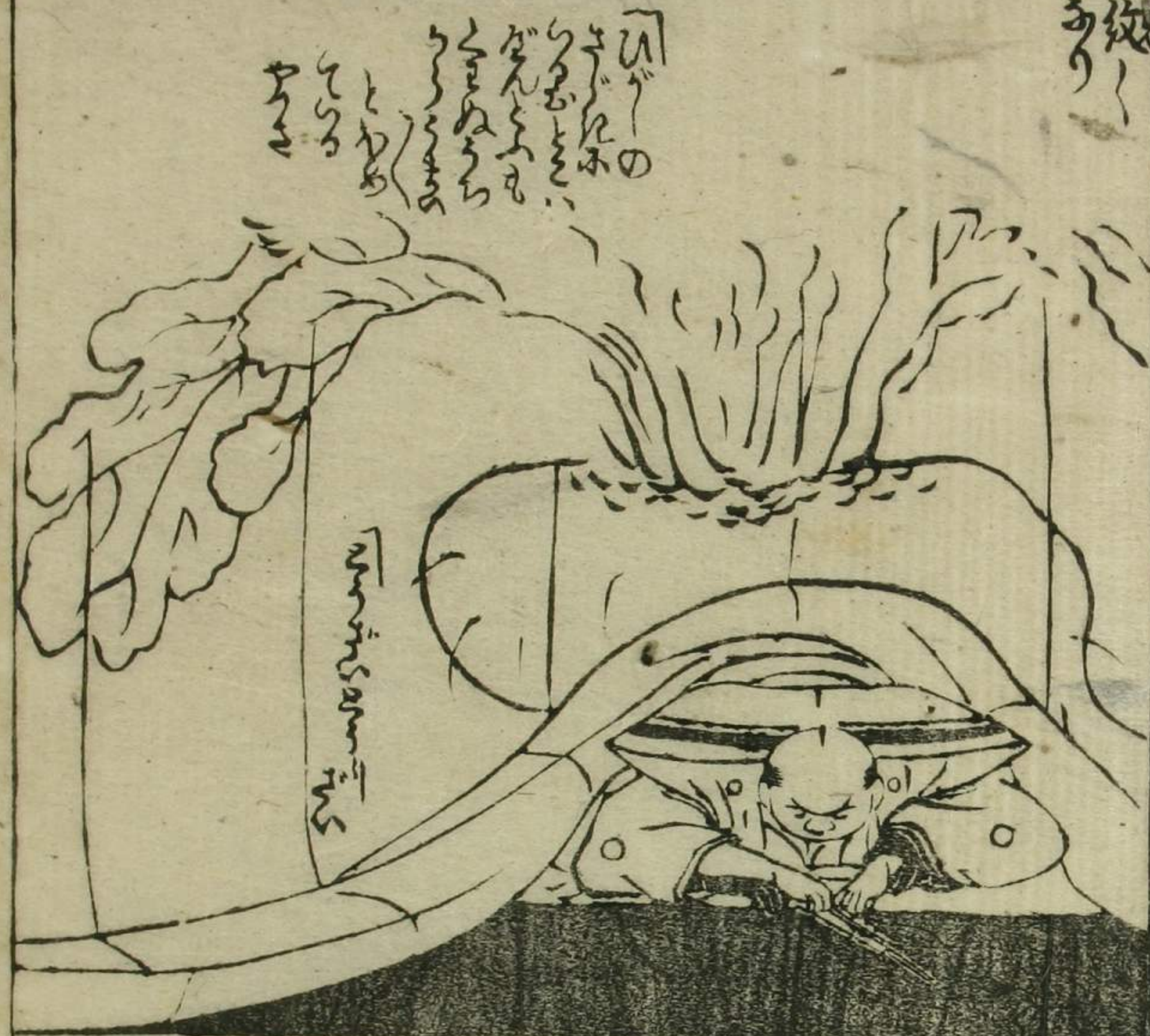
このや八の...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



...  
 ...



...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



此のら舟の...  
 見え...  
 らうの星



らうの...  
 らうの...  
 らうの...  
 らうの...  
 らうの...  
 らうの...  
 らうの...

らうの...  
 らうの...  
 らうの...  
 らうの...

らうの...  
 らうの...  
 らうの...  
 らうの...



らうの...  
 らうの...  
 らうの...

らうの...  
 らうの...  
 らうの...

らうの...  
 らうの...  
 らうの...

あつたハ  
人のものごとくあふ  
おひ秋のあめい

おひも  
めいも  
あつたハ  
人のものごとくあふ  
おひ秋のあめい



おんが  
あつたハ  
人のものごとくあふ  
おひ秋のあめい

あつたハ  
人のものごとくあふ  
おひ秋のあめい

あつたハ  
人のものごとくあふ  
おひ秋のあめい

あつたハ  
人のものごとくあふ  
おひ秋のあめい



あつたハ  
人のものごとくあふ  
おひ秋のあめい



題馬琴新作稗史

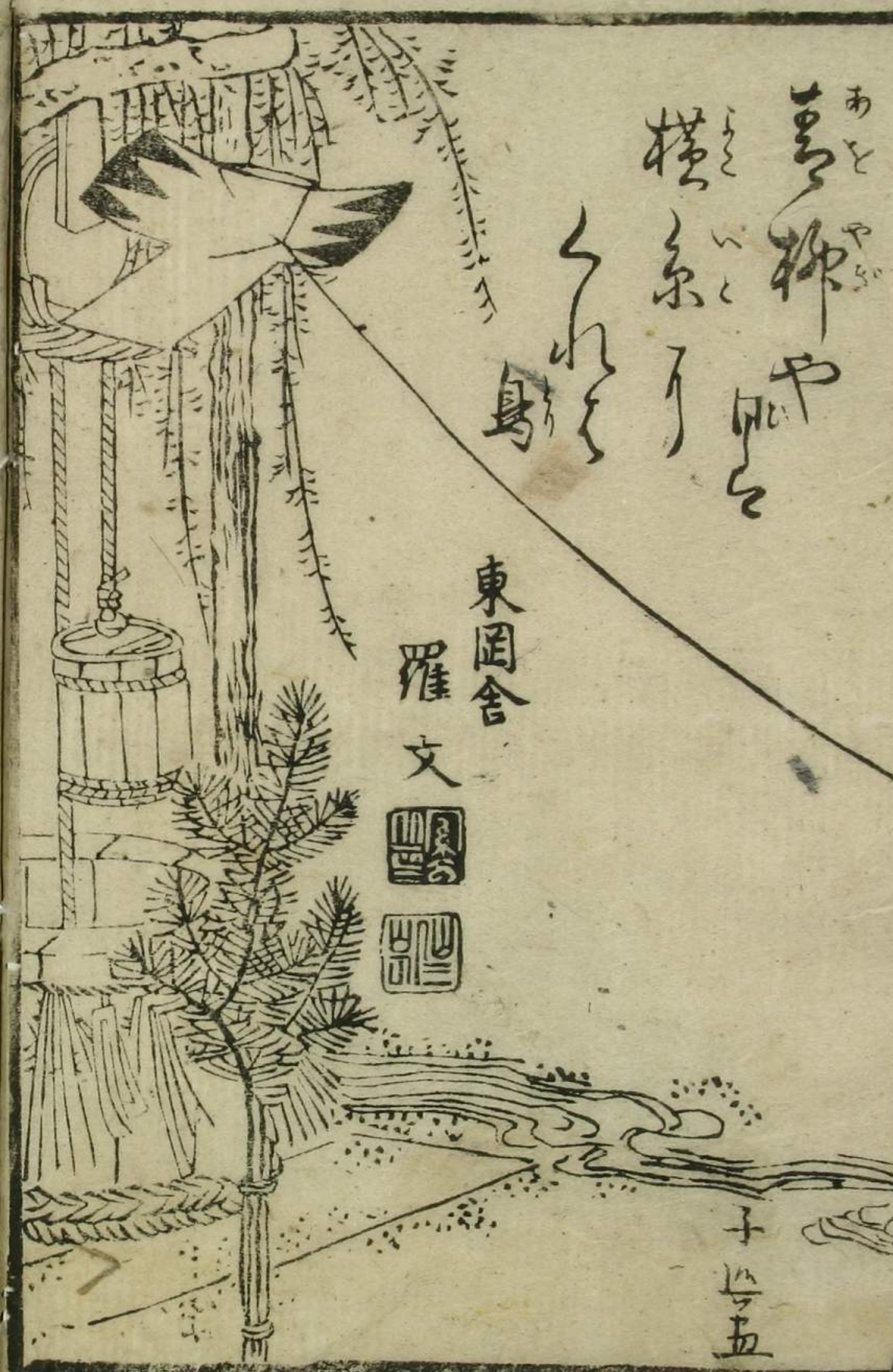
曲亭馬琴作

多柳や  
横糸了

鳥

東園舎

羅文



十  
五

山東窟主人京傳子著

忠臣水滸傳前編

全部五卷  
出来般行

此本は太平記と主意と水滸傳の趣とや唐土の  
小説ふあしひく假名手本忠臣蔵の十一段と十一回  
かきとり忠臣孝子義男貞婦の作業と記し  
挿史ありふれりてりてりてりてりてりてりてりてり  
懲ふたりやまを至極たりるまきりてりてりてりてり  
くくく国字と以て記しりてりてりてりてりてりてり

繪本二十四孝

全部三冊

一狂哥法語

唐末山人作  
西面摺袋

狂歌言葉の元末

全壹冊

板元

通油町

為屋重三郎



